

4 基本目標を 実現するための 個別目標

ページの見方

健康都市やまと総合計画前期基本計画では、基本構想に掲げている8つの基本目標に沿って20の個別目標を設定しています。この計画では、それぞれの個別目標ごとに現状と課題や取り組み方針、めざす成果、成果を計る主な指標を記載しています。

個別目標は、基本目標の達成に向けた方向性を詳しく示すものです。市民に身近で、具体的な目標を掲げています。

現状と課題は、現在の大和市を取り巻く状況と、対応が求められる課題について明らかにしたものです。

取り組み方針は、上段に掲げた課題の解決に向け、今後の施策の進め方を表すものです。

各ページの下段には、本文中にある専門的な用語や固有の名称などについて解説を記載しています。

人の健康

基本目標1 いつまでも元気でいられるまち

個別目標 1-2 いつでも必要な医療が受けられる

現状と課題

- 高齢化の進展に伴い、医療需要の増加が加速しています。団塊の世代が75歳以上となる野に入れながら、誰もが最期まで住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療・介護とともに、在宅医療の推進、適切かつ効率的な医療提供体制の構築に取り組む必要
- 休日夜間急患診療所の充実や輪番制*などにより、本市では救急医療を安定して提供しています。特に、小児科の二次救急*については、体制の充実により市立病院で24時間入力を可能としました。
- 二次救急においては、近年、改善の傾向が見られますが、依然として軽症患者の受け入れに苦慮しています。中度、重度の患者へ適切な診療を行える体制を確保するためにも、各医療機関の受診について、周知を図っていく必要があります。
- 多くの患者が訪れている市立病院は、地域の基幹病院としての信頼に応えるべく、診療を提供することが期待されています。また、高齢化の進展に伴い、がん患者の増加に伴い、地域がん診療連携拠点病院*としての役割を十分に果たしていくことが求められます。

取り組み方針

- 高齢化に伴う医療ニーズの変化へ対応するため、各医療機関の役割を明確化して市民や関係機関と認識の共有化を図るとともに、在宅医療に係る環境の充実などに努めていきます。
- 二次救急の適正受診に向けて、市民への一次救急*と二次救急の違いに関する周知や健康相談を行うとともに、各医療機関への支援等により救急医療体制を継続的に維持しながら、安定化にも努めていきます。
- 市立病院が、二次医療機関として地域で中心的役割を果たしていくため、地域における役割を明確に把握していくことに加え、高齢の方の増加に伴う疾病構造等の変化にも即応体制の拡充等を検討していきます。
- 市立病院と、地域内の病院や診療所等との連携をさらに強化することで、効果的な医療の提供に寄与していきます。



大和市立病院

*市内各病院の輪番制……市立病院を含む市内5つ（平成31年1月現在）の病院が、休日や夜間において、内科の中度・重度患者を輪番で受け持つ体制です。
 *二次救急……入院や手術など高度な治療を必要とする病状やけがに対応する救急医療をいいます。
 *地域がん診療連携拠点病院……専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などが指定する病院です。
 *一次救急……入院や手術を必要としない病状やけがに対応する救急医療をいいます。

めざす成果は、施策を推進することで達成される将来のまちの姿を表すものです。理想とするまちの状態と、その説明を掲載しています。前期基本計画全体で47のめざす成果があります。

成果を計る主な指標は、めざす成果の進捗状況を数値で把握するためのものです。様々な指標の中から代表的なものを掲げています。141の指標を設定しています。

基本目標を実現するための個別目標

めざす成果 1-2-1

いざというときに診療を受けられる

夜間や休日でも医療を受けられる体制が整い、急な病気やけがの際に診療を受けることができます。

| 成果を計る主な指標 | 現状値 | 中間目標値 (2021) | 最終目標値 (23) |
|--------------------------|-----------------|--------------|------------|
| 休日夜間急患診療所（一次救急）の年間患者取扱件数 | 12,403 件 (2017) | 13,000 件 | 13,000 件 |
| 二次救急での中度・重度患者の割合 | 14.8% (2017) | 17.2% | 18.4% |
| 24時間健康相談受付件数 | 18,068 件 (2017) | 18,500 件 | 18,500 件 |

成果を計る主な指標の数値は、計画策定時における現状値、施策の進捗の目安となる年間目標値、計画終了年度における最終的な目標値を示すものです。計算式や目標値の設定理由については、P117～に掲載しています。



- 関連するめざす成果
- 2-1-1 高齢の方やその家族が、不安・負担を取り除くために必要な支援を受けられる (p.39)
 - 3-1-1 すべてのこどもがすくすくと健康に育っている (p.45)
 - 5-2-4 十分な消防力が整っている (p.64)

めざす成果 1-2-2

市立病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている

高度で専門的な医療の提供や他の医療機関との連携、災害への備えなどが十分に図られており、地域医療の中心的な役割を果たしています。

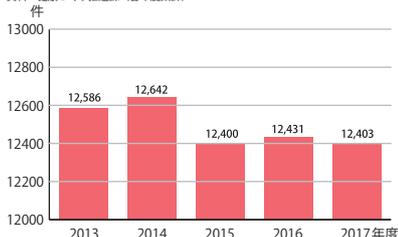
| 成果を計る主な指標 | 現状値 | 中間目標値 (2021) | 最終目標値 (2023) |
|-------------------------------|-----------------|--------------|--------------|
| 地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合（紹介率） | 60.9% (2017) | 73.2% | 80.3% |
| 市立病院から地域の診療所等に紹介した患者の割合（逆紹介率） | 29.6% (2017) | 54.5% | 74.0% |
| 患者満足度調査における満足度の割合 | 88.7% (2017) | 91.0% | 93.0% |
| がん患者受入数（延べ） | 42,966 人 (2016) | 48,000 人 | 50,000 人 |

関連するめざす成果は、「将来都市像」に定める3つ（人・まち・社会）の健康の連携を深めていくためのアプローチとして、基本目標の枠を越えた他分野との関連性を示したものです。当該ページのめざす成果が達成された場合に、プラスの効果を受ける他のめざす成果を記載しています。

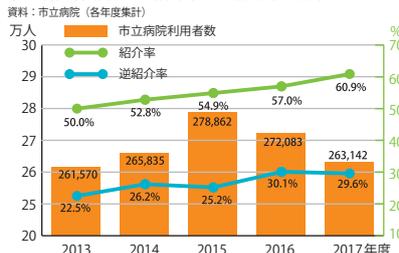


- 関連するめざす成果
- 2-1-1 高齢の方やその家族が、不安・負担を取り除くために必要な支援を受けられる (p.39)
 - 3-1-1 すべてのこどもがすくすくと健康に育っている (p.45)
 - 5-1-2 防災・減災のしくみが整っている (p.60)
 - 5-2-4 十分な消防力が整っている (p.64)

休日夜間急患診療所の年間患者取扱件数の推移



市立病院利用者数と紹介率、逆紹介率の推移





人の健康

基本目標

1

いつまでも 元気でいられるまち

私たちの身体には、年齢を重ねるに連れて機能の低下や変化が生じてきます。高齢になっても健康を維持・増進するためには、意識的に体を動かすなど、様々な取り組みや心掛けが必要になります。今後、社会の高齢化がさらに進展すると予想されており、市民自身による健康づくりが、ますます重要になってくることが見込まれます。

その一方で、現在でも多くの高齢の方が、仕事や地域活動、ボランティアなど幅広い分野で元気に活躍されています。社会において力を発揮されることは、心身の健康につながるため、今後も、より多くの高齢の方に活躍してもらえよう機会の充実や活動の支援などを図ることが必要になります。

また、日頃の健康づくりとともに、病気の早期発見、早期治療によって重症化させない取り組みも大切です。年代や性別に応じて適切な検診を受けられるよう、受診環境の向上に努めます。そして、万が一、けがを負ったり、病気になったりすることがあっても安心して受診できる環境を整えることにも取り組んでいきます。

大和市は「健康都市」を実現するために、100年に迫る長い人生を、誰もが豊かなものにできるよう、健康づくりの支援や、地域医療体制の充実を図り、「いつまでも元気でいられるまち」づくりを推進します。

個別
目標

1-1 健康寿命を延伸する

1-2 いつでも必要な医療が受けられる



個別目標 1-1

健康寿命^{*}を延伸する

現状と課題

- 社会の高齢化が進む中で、心身の健康を保つことは、充実した人生を過ごすため、ますます重要になっています。今後も、市民一人ひとりがいつまでも健康でいられるよう、取り組みを促進していく必要があります。
- 元気でアクティブな高齢の方が増えており、生きがいつくりや自己実現などへのニーズも多様化しています。
- 健康診査の受診は、自らの健康状態の把握、病気の予防、早期発見、早期治療等に有効です。子育て中の方、働き盛りの世代から、高齢の世代まで、健康づくりの第一歩として受診を促すことが求められます。
- がん検診については、近年、受診率や検査精度の向上により、早期治療につながる例が増えています。検診の効果をさらに向上させていくためには、より有効な実施体制の検討や、市民への普及啓発を継続的に行うことが必要です。
- 糖尿病予防などに重点をおいた、訪問による保健指導については、健康リスクを抱える市民の生活習慣の改善等に効果を上げています。今後は、対応する疾病の対象を広げていくことが望まれます。
- インフルエンザや感染性胃腸炎など、普段の暮らしの中で罹患する恐れのある感染症から身を守るには、日頃の注意と予防が肝心です。
- 近年、全国的に減少傾向にはありますが、依然として毎年多くの人が自殺で亡くなっており、かけがえのない命を守るため、引き続き対策が必要です。



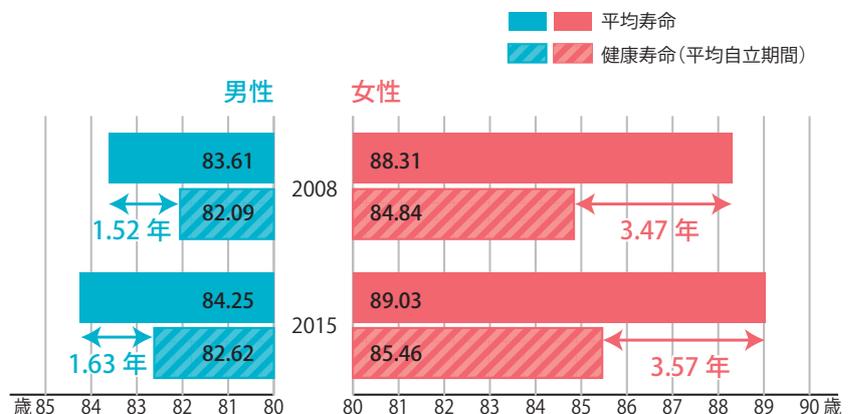
健康普及員による活動の様子

取り組み方針

- 市民一人ひとりが健康に関する意識を高め、自ら積極的に健康づくりを推進できるよう、地域の関係団体などとも連携しながら取り組みを進めていきます。
- 市民が日常生活の中で気軽に行うことが可能で、介護予防などの効果が期待できる「歩くこと」を活用した健康増進の取り組みを充実させていきます。
- 「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言の理念を発信していくとともに、高齢の方が楽しみや張り合いなどに満ちた毎日を住み慣れた地域で過ごせるよう、介護や認知症予防、生きがいの創出に向けた取り組みを推進します。
- 各種健康診査やがん検診については、より多くの人を受診できるよう、機会の拡大や、分かりやすい情報の発信、意識啓発等に努めていきます。
- 訪問による保健指導については、糖尿病に重点を置きながら生活習慣病対策を進めるほか、食育の推進や歯と口腔の健康づくりと並行して取り組むことで、より多くの疾病の予防、重症化防止を図るとともに、医療機関との連携等を強化しながら、効率的かつ効果的な実施に努めます。
- データヘルス計画*に基づき、特定健康診査*や保健指導等の取り組みの効果を相互に高め、市民の健康維持・増進と医療費の適正化を並行して進めます。
- 感染症対策として、正しい知識や予防策の普及、啓発に取り組むほか、効果が期待できる予防接種の適切な実施等に努めます。また、新型の感染症などが発見された場合には、関係機関と連携し早急に対応します。
- 自殺対策については、県などの関係機関等と連携しつつ、市民や地域とも力を合わせながら、本市の状況を的確に踏まえた施策を展開します。

もっと詳しく！健康寿命

健康寿命は65歳時の平均自立期間を用いて表します（平均自立期間＋65年）。大和市における健康寿命を男女別に表すと、図の通りとなります。いつまでも元気で暮らすためには、長寿化が進む中で、健康寿命を伸ばし、平均寿命との差を短くしていくことが重要です。



*平均自立期間は介護保険制度の要介護2の認定を受けるまでの期間の平均値です。

*国が公表している日本全体の健康寿命は、アンケート調査（健康上の問題での日常生活への影響の有無「国民生活基礎調査」）で求めた値で、男性72.14年、女性74.79年（平成28年）となっており、自治体を用いる65歳時の平均自立期間より10年程度短くなっています。

*データヘルス計画……健康・医療データを活用した科学的アプローチを通じて、生活習慣病の早期発見・予防、生活改善や重症化予防等を効果的かつ効率的に実施することを目的とした計画です。

*特定健康診査……40～74歳の国民健康保険の加入者を対象とした健康診査です。

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

基本目標5

基本目標6

基本目標7

基本目標8

めざす成果 1-1-1

一人ひとりが健康づくりに取り組み元気で暮らしている

年齢や性別を問わず市民一人ひとりが、健康づくりに取り組むことで、健康で充実した日々を送っています。

| 成果を計る主な指標 | | 現状値 | 中間目標値 (2021) | 最終目標値 (2023) |
|-----------------------------|----|----------------|----------------|----------------|
| 健康寿命（平均自立期間）と平均寿命の差 | 男性 | 1.63 歳 (2015) | 差が短くなるよう取り組みます | 差が短くなるよう取り組みます |
| | 女性 | 3.57 歳 (2015) | | |
| 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合 | | 62.9% (2016) | 68.0% | 70.0% |
| 高齢の方が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合 | | 57.1% (2016) | 62.0% | 64.0% |
| 介護予防セミナー受講者数 | | 1,112 人 (2017) | 1,167 人 | 1,186 人 |
| シルバー人材センター会員数 | | 961 人 (2017) | 1,053 人 | 1,100 人 |



関連するめざす成果

- ・ 2-2-2 社会保障のしくみが安定的に維持されている (p.41)
- ・ 7-3-1 スポーツを楽しむ人が増えている (p.87)
- ・ 8-3-1 地域の活動が活発に行われ、絆が深まっている (p.99)
- ・ 8-3-2 公共を担う市民や事業者が増えている (p.100)

めざす成果 1-1-2

心身の健康を維持・増進するための体制が整っている

健康状態を把握できる環境の整備や、感染症などの予防に取り組むとともに、効果的な自殺対策が進み、心身の健康が維持されています。

| 成果を計る主な指標 | 現状値 | 中間目標値 (2021) | 最終目標値 (2023) |
|------------------------------|----------------|--------------|--------------|
| 肺がん検診受診率 | 20.2% (2017) | 26.2% | 29.2% |
| 特定健康診査の受診率 | 34.1% (2017) | 39.0% | 41.0% |
| 肺炎等による死亡率 *人口10万人あたりの死亡者数 | 103.4 人 (2016) | 88.4 人 | 82.4 人 |
| 自殺死亡率 *人口10万人あたりの自殺者数 | 14.5 人 (2017) | 12.8 人 | 11.9 人 |

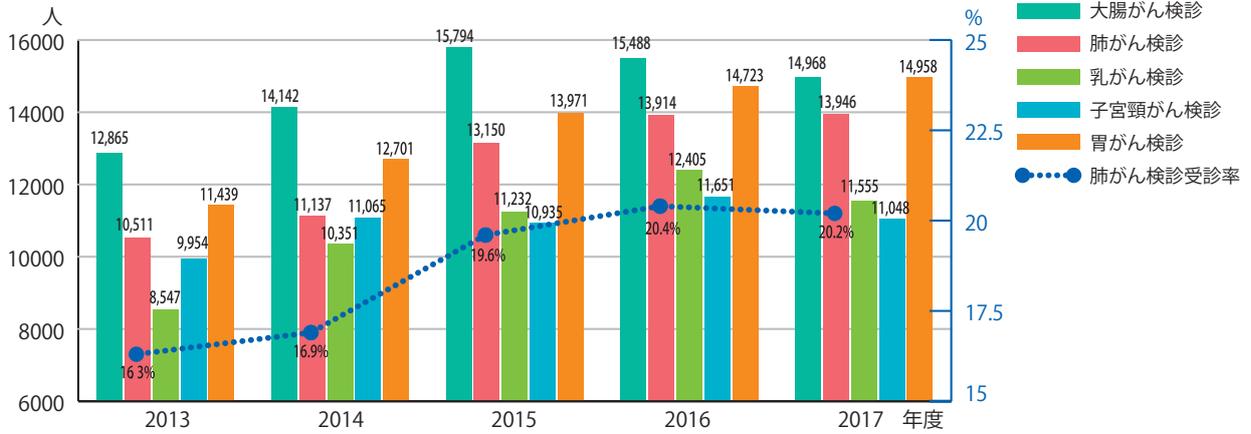


関連するめざす成果

- ・ 2-2-2 社会保障のしくみが安定的に維持されている (p.41)
- ・ 4-2-1 心身ともに健康に学校生活を送ることができている (p.54)

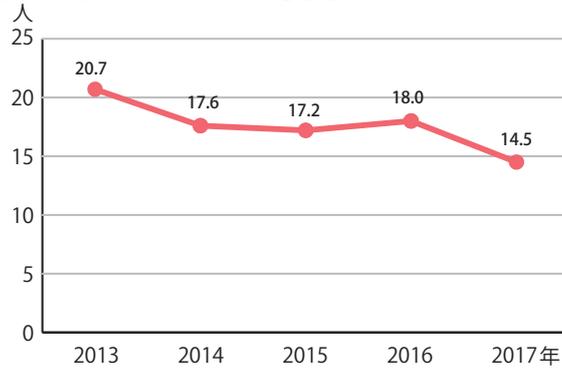
5がん検診受診者数と肺がん検診受診率の推移

資料：健康づくり推進課（各年度集計）



人口10万人あたりの自殺死亡者数の推移

資料：障がい福祉課（各年調査）



健康度見える化コーナー（文化創造拠点シリウス）

基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8



基本目標1

個別目標 1-2

いつでも必要な医療が 受けられる

基本目標2

基本目標3

基本目標4

基本目標5

基本目標6

基本目標7

基本目標8

現状と課題

- 高齢化の進展に伴い、医療需要の増加が加速しています。団塊の世代が75歳以上となる2025年を視野に入れながら、誰もが最期まで住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療・介護連携を促進するとともに、在宅医療の推進、適切かつ効率的な医療提供体制の構築に取り組む必要があります。
- 休日夜間急患診療所の充実や輪番制*などにより、本市では救急医療を安定して提供する体制が整っています。特に、小児科の二次救急*については、体制の充実により市立病院で24時間365日の受け入れを可能としました。
- 二次救急においては、近年、改善の傾向が見られますが、依然として軽症患者の受診率が高い状況にあります。中度、重度の患者へ適切な診療を行える体制を確保するためにも、疾病の程度に応じた医療機関の受診について、周知を図っていく必要があります。
- 多くの患者が訪れている市立病院は、地域の基幹病院としての信頼に応えるべく、適切で良質な医療を提供することが期待されています。また、高齢化の進展に伴い、がん患者の増加が見込まれており、地域がん診療連携拠点病院*としての役割を十分に果たしていくことが求められます。

取り組み方針

- 高齢化に伴う医療ニーズの変化へ対応するため、各医療機関の役割を明確化して市民や関係機関と認識の共有化を図るとともに、在宅医療に係る環境の充実などに努めていきます。
- 二次救急の適正受診に向けて、市民への一次救急*と二次救急の違いに関する周知や健康相談を行うとともに、各医療機関への支援等により救急医療体制を継続的に維持しながら、安定化にも努めていきます。
- 市立病院が、二次医療機関として地域で中心的役割を果たしていくため、地域における医療ニーズを的確に把握していくことに加え、高齢の方の増加に伴う疾病構造等の変化にも即応できるよう、医療体制の拡充等を検討していきます。
- 市立病院と、地域内の病院や診療所等との連携をさらに強化することで、効果的かつ効率的な地域医療の提供に寄与していきます。



大和市立病院

*市内各病院の輪番制……市立病院を含む市内5つ（平成31年1月現在）の病院が、休日や夜間において、内科の中度・重度患者を輪番で診療しています。
 *二次救急……入院や手術など高度な治療を必要とする病気やけがに対応する救急医療をいいます。
 *地域がん診療連携拠点病院……専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担う病院として、国が指定する病院です。
 *一次救急……入院や手術を必要としない病気やけがに対応する救急医療をいいます。

めざす成果 1-2-1

いざというときに
診療を受けられる

夜間や休日でも医療を受けられる体制が整い、急な病気やけがの際に診療を受けることができます。

| 成果を計る主な指標 | 現状値 | 中間目標値 (2021) | 最終目標値 (2023) |
|--------------------------|-----------------|--------------|--------------|
| 休日夜間急患診療所（一次救急）の年間患者取扱件数 | 12,403 件 (2017) | 13,000 件 | 13,000 件 |
| 二次救急での中度・重度患者の割合 | 14.8% (2017) | 17.2% | 18.4% |
| 24 時間健康相談受付件数 | 18,068 件 (2017) | 18,500 件 | 18,500 件 |



関連する
めざす成果

- 2-1-1 高齢の方やその家族が、不安・負担を取り除くために必要な支援を受けられる (p.39)
- 3-1-1 すべての子どもがすくすくと健康に育っている (p.45)
- 5-2-4 十分な消防力が整っている (p.64)

めざす成果 1-2-2

市立病院が
地域の基幹病院としての
役割を果たしている

高度で専門的な医療の提供や他の医療機関との連携、災害への備えなどが十分に図られており、地域医療の中心的な役割を果たしています。

| 成果を計る主な指標 | 現状値 | 中間目標値 (2021) | 最終目標値 (2023) |
|--------------------------------|-----------------|--------------|--------------|
| 地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合 (紹介率) | 60.9% (2017) | 73.2% | 80.3% |
| 市立病院から地域の診療所等に紹介した患者の割合 (逆紹介率) | 29.6% (2017) | 54.5% | 74.0% |
| 患者満足度調査における満足度の割合 | 88.7% (2017) | 91.0% | 93.0% |
| がん患者受入数 (延べ) | 42,966 人 (2016) | 48,000 人 | 50,000 人 |

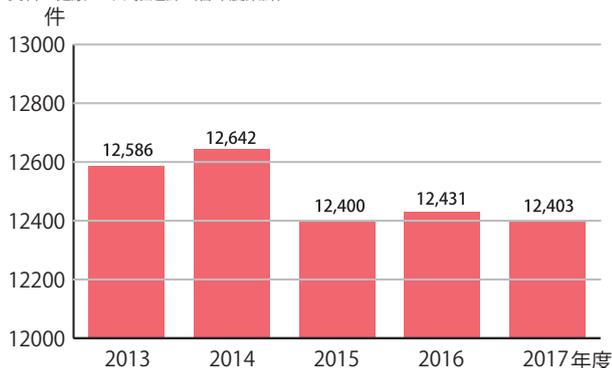


関連する
めざす成果

- 2-1-1 高齢の方やその家族が、不安・負担を取り除くために必要な支援を受けられる (p.39)
- 3-1-1 すべての子どもがすくすくと健康に育っている (p.45)
- 5-1-2 防災・減災のしくみが整っている (p.60)
- 5-2-4 十分な消防力が整っている (p.64)

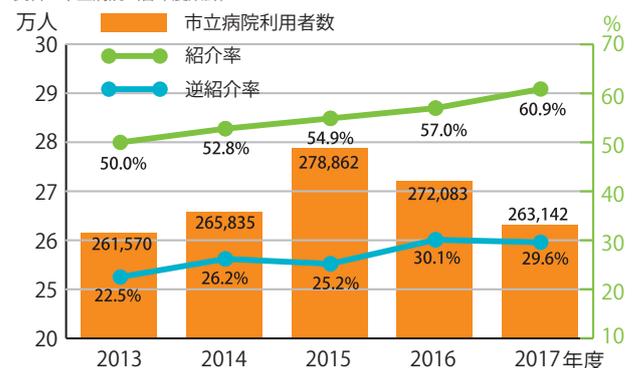
休日夜間急患診療所の年間患者取扱件数の推移

資料：健康づくり推進課（各年度集計）



市立病院利用者数と紹介率、逆紹介率の推移

資料：市立病院（各年度集計）



基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

基本目標 7

基本目標 8

